

列車が着くと駅前では、海外からの観光客の姿が多く見られるようになりました。国際観光保養都市「指宿」が趣を変える瞬間でもあります。九州新幹線開通に合わせて運行している、観光特急「指宿のたまて箱」は大変な人気です。

鹿児島から青森まで新幹線でつながり、この3月からは東京から金沢間が新幹線で結ばれます。観光客の流れが九州新幹線開業時とは大きく変わってくるのが予想されます。そういう時だからこそ、指宿のおもてなしにさらに磨きをかけ、多くの観光客においでいただくようにしなくてはなりません。

「指宿に行くと、こんにちハ。ハロー。ニイハオ。」と笑顔で声をかけてくれる市民がいっぱいいますよ!そんな評判が全国に広まって欲しいと思います。

観光指宿のブランドは紛れ

もなく「もてなしの心」です。それは、市民一人ひとりの笑顔とあいさつが創りだすものです。

指宿は、歴史的景観や眺望の保護には伝統的の力を入れてきた街です。砂むし温泉や開聞岳、池田湖、長崎鼻、鰻池など、観光スポットはたくさんありますが、これらの観光資源をより一層生かしながら、多くのお客様に喜んでもらえるような国際観光保養都市にしたいものです。

さて、34回を数える「菜の花マラソン」には2万人近くのランナーが、「菜の花マーチ」には1万人を超えるウォーカーが集い、菜の花の咲き誇る早春の指宿路を満喫していただきました。いずれの大会も、特筆すべきは参加者の多くがリピーターであるということです。

ゴール地点でランナーを待ち受ける光景は感動とともに

熱い涙が流れ、指宿で出会った人々との友情と信頼の絆が深まる瞬間です。

顔なじみのランナーを見つけ、飲み物、食べ物差し出す光景はまさしく「指宿のおもてなし」そのものです。

ここは菜の花大園

訪れる人にやすらぎを

去りゆく人にしあわせを
指宿の玄関口、道の駅いぶすきに刻まれた言葉です。

春の観光シーズンがやってきます。観光都市として人や街の変化は地域発展の活力源でありますが、古より刻まれた指宿の旅情いしじやだけは大切にしたいものです。

指宿市長 豊留悦男

